

にいがた文化

第8号

2023年3月



増村朴斎 《学規》

(上越市教育委員会蔵)

増村朴斎(1868〜1942年)は、人の道がいかにあるべきかを説き、学問は何のためにするかを学生に示した。有恒学舎創設から3年後の明治32(1899)年2月27日に定められた。この衝立は講堂に置かれていた。

- ・志気充実にして操守堅固なるべし
- ・質朴剛毅の風を養い深く懦弱と軽薄とを戒むべし
- ・礼讓を重んじ虚飾の風を除くべし
- ・勤勉励精生徒たるの自分を尽くすべし
- ・摂生に注意し身体の強健を図るべし

目次

◆館長あいさつ 野中浩俊 2

◆特集

◆令和4年度企画展記念講演①

◆宮校二 命へのまなざし

小島ゆかり 4〜6

戦場という極限の中を生きた歌人は、終生、命あるものを尊ぶまなざしを持ち続けた。白秋から受け継いだロマンチズムを、代表歌から読み解く。

◆令和4年度企画展記念講演②

◆鷺尾雨工 作品と生涯

五十嵐政人 8〜9

職をいくつも変え、経済的には苦勞する中で文学への志を貫いた直木賞作家、鷺尾雨工。その波乱に満ちた生涯。

◆活動報告

◆企画展ほか

2〜3

◆寄稿

◆宮校二 誕生二〇年・宮校二

記念館開館三〇年を迎えて

宮校二記念館館長・下村正人 7

◆その他

◆講演要旨「巻菱湖 空海以来の

天才書家」

アンケート 6〜7

協賛企業・法人広告 8〜9

新潟県内の文化人顕彰施設・

団体からのPR情報 10〜11

令和4年度「法人パスポート会員、

維持会員」、および協力企業、

編集後記・利用案内 12〜16

16

昨年四月、にいがた「文化の記憶館」館長に就任致しました。

実は当館設立当初より評議員の席に在りましたものの、浅学ゆえ何のお役にも立てず過ごしておりましたが、神林恒道前館長の後を引き継ぐ形で「新潟市會津八一記念館」館長との併任を拝命し、今日に至っております。

ところで、平成二十五年四月に当館が設立され、はや十年になります。これまで各地から新潟を訪れた知人や研究者を当館に案内する度に本県出身の偉人達の肖像パネルを見て、その偉業に感嘆される様子を度々目にしておりますが、これは初めて

当館を訪ねる県民の皆様の様子にも通じるように思います。

私達は日常生活の中で新聞・テレビ・スマホやイン



野中 浩俊

館長就任に当たって

■先人の業績を伝える使命

世にかけ、歴史の上にわずか数人の貴人や武人・僧侶の名がみられるようになりました。

しかし、本格的な越後の文化活動となれば江戸後期の僧良寛の出現を待たねばなりません。そこで当館では良寛を起点として幕末・明治から現代に至るまでの我が国の近代化推進に貢献した本県ゆかりの文化人の活動を分野別に整理し、その風土と彼らの足跡をまとめました。これが設立以来当館のメイン展示となっている百有余名のほる「偉人紹介パネル」です。

ターネットを通じて世界中の様々な情報を得ており、今や正に情報過多の時代と言えます。しかし、案外身近な事柄については関心を示さず、つい見過ごしてしまうというのが現状です。こうした中、当館では本県出身者並びに本県ゆかりの文化人を調査し、展示紹介する事を第一に掲げ、これまで多くの企画を実施してまいりました。

因みに私達の歴史を振り返ってみますと、遠く古代では越後といえは見るべき文化もない辺境の地とされていましたが、その後、中世から近

その結果、明治以降の新潟文化の全貌が明らかとなり、先人達の業績がより鮮明に浮かび上って参りました。

た。そこで現代に生きる私達はこれら先人の遺産を郷土新潟の誇りとして次代を担う若者達の原動力となるよう正しく伝える事が使命であると考えます。

本県には現在、上・中・下越・佐渡の各所に先人の顕彰施設が点在し、その数三十余館に上ります。しかしこれらはそれぞれ地域の宝として大切に温存されてはいますものの、何分にも南北二百数十キロに及ぶ広大な土地ゆえ、残念ながら現時点では県民共有の財産とは言い難く、今後は広報や相互連携等、取り組まねばならぬ課題が山積しています。

■教育現場との連携を模索

また、教育の面では、幼少時にふとした事から先人の遺跡や業績に触れ、身近な偉人との出会いに触発されて生涯の生き方までも決定づけられるという例も少なくなく、あらためて偉人顕彰の意義の大きさを感じ、教育現場との更に密なる関係を思考しているところです。

とはいえ、現在の設備や限られた予算、私以下四名のスタッフではどこまで成し得るか、只今模索中です。今後とも従前にも増して何卒よろしくご支援の程、重ねてお願い申し上げます。

活動報告

(4年4月)

4年度企画展

「鷺尾雨工」「増村朴斎」「宮柵二」の3人を取り上げた。3展とも年譜を充実させ、足跡や業績、ゆかりある人物との関連を詳しく紹介した。

鷺尾雨工(1892~51) 新潟県人として初めて直木賞(第2回)を受賞。歴史小説を数多く発表した。受賞作は南北朝末期の乱世のありさまを描いた「吉野朝太平記」。生誕130年を記念し、小説作品を中心に展示(4月9日~7月10日、入館者589人)。解説会3回。

貧しさの中で文学の志を貫いたその生涯について、鷺尾雨工の碑を建てる会事務局長の五十嵐政人さん(新潟市)が講演。8~9ページに要旨。

増村朴斎

は現在の上越市板倉区針に生まれ、上京して漢学を学んだ。郷土の子弟を育てることを夢見て帰郷。私財を投じて「有恒学舎」(有恒高校の前身)を創設した教育者。「有恒」には恒(つと)に変わらない正しい信念を持ち続ける人間を育成したいという願いが込められている。上越市や

有恒高校の協力をいただき、墨書や授業のノート、勝海舟が揮毫し井上圓了が届けた扁額「有恒学舎」などを展示（8月6日～11月3日、入館者990人）。解説会3回。

宮柵二（1912～86）は歌誌『コスモス』を主宰し多くの歌人を輩出。宮中歌会始の選者を8回務め、戦後の短歌界を牽引した。魚沼市の宮柵二記念館ほかの協力で掛軸や色紙、その他資料を紹介。生誕110年を記念して開催。（11月26日～5年2月28日、入館者708人）。解説会3回。



| 年号 | 西暦 | 年齢 | 主な出来事（※本展出品資料に関する事項を赤字で示す） |
|------|------|----|-------------------------------------------------------------------------------|
| 昭和21 | 1946 | 34 | 5月5日、戦後短歌の再出発を目指し、一善会といふ同人誌を創刊。11月25日、歌集『群像』を青磁社より刊行。翌年、『新道空・草野心平・高木一夫・佐藤佐太郎』 |
| 昭和22 | 1947 | 35 | 1月25日、新歌人集団に加わる。5月17日、長男由樹（ふゆき）生まれる。この年、『多磨』の選者の一人となる。 |
| 昭和23 | 1948 | 36 | 9月26日、日本歌人クラブが結成され、委員に選ばれる。10月20日、歌集『小庭』を古任社より刊行。 |
| 昭和24 | 1949 | 37 | 4月15日、歌集『山西省』を古任社より刊行。7月29日、次女夏実（なつみ）生まれる。 |

6ページ。写真は宮柵二展。

6～9月、大学生の実習と中学生の職場体験を受け入れた。

▽臨地実務実習 開志専門職大学（本部・新潟市中央区紫竹山）のアニメ・マンガ学部2年生の市川恵美子さん（新潟）、菅原彩花さん（宮城）、山崎海里さん（埼玉）が実習に取り組んだ（6月～8月）。3人は鷲尾尾工の生涯を4コマ漫画にする課題に挑戦。副読本などで雨工の60年の生涯を調べて描いた（写真①）。

できたのが「直木賞までの道のり」だ。①祖母の読み聞かせで歴史物語に興味を持ったこと②なかなか作家として芽の出ない時代に始めたおでん屋の様子③妻の勧めで本名「浩」



のエピソードが4コマ漫画で紹介されている。

から「雨工」への改名、そして④『吉野朝太平記』で直木賞受賞。当館の分野別常設展示コーナー（医学、中国学、文学、美術、新潟の女性）では、取り上げている人物

▽職場体験 新潟市鳥屋野中学校の男子生徒2人（7月7～8日）と、同市五十嵐中学校の女子生徒2人（9月29～30日）。

チラシ発送用封筒の宛名シール貼り、チラシの整理とポスターの張り替え、県内各館から送られてきたリーフレットの整理、商品の在庫管理といった裏方的作業と、受付でのお客様対応などを体験。

大学生も中学生も、新潟にはさまざまな分野で先駆的役割を果たし、独創的な業績を残した人物がいたことを初めて知ったと感想を話した。若い人たちに新潟の先人の業績を知ってもらうため、今後とも受け入

れには前向きに対応していきたい。

トピック・話題

◇8・7 日本教育公務員弘済会新潟支部の本間昭支部長から当館の長谷川義明理事長に、令和4年も活動助成金10万円が贈られた。先人の似顔絵を配したパンフレット作製―配布へのご支援

◇9・1 県の「ぐるっとミュージアム」事業事務局が、この事業に参加している博物館・美術館をホームページで特集するための取材で来訪

◇10・4～11・3 新潟市で坂口安吾（1906～55）の生誕祭（10・20）が開かれるのに合わせ、安吾が兄の献吉に宛てた手紙を展示

◇10・18 有恒高校の同窓生有志ら20人が開催中の増村朴斎展見学のため来館。上越市板倉区が視察事業として計画した。

◇11・20 新潟市の中ノ口地区公民館の連続講演会「大川博の魅力と実像に迫る」で、当館の石垣雅美学芸員が、旧中ノ口村出身で東映を再建した大川博（1896～1971）の功績を紹介

◇9月 スタンプカード発行 リピーター対策。入館4回で招待券、8回で招待券と粗品進呈

◇9月 ツイッター開始 情報発信の多様化を模索

宮柁二 命へのまなざし

小島ゆかりさん（『コスモス』選者）

4年12月14日、開催中の企画展「生誕110年 宮柁二 越後が生んだ歌人の歌と生涯」に合わせ、『コスモス』選者の歌人小島ゆかりさんによる講演会「宮柁二 命へのまなざし」を開いた。

宮柁二は大正元（1912）年、堀之内町（現魚沼市）に生まれた。昭和14（1939）年8月、27歳の時に召集令状が来て中国大陸に渡り山西省を転戦する。その時に詠んだ歌が有名な歌集『山西省』。回想詠ではない戦場のリアルタイムの歌。戦地文学というか戦争文学として貴重な。

小島さんは「直接教えを受けたことはないが、先生の歌からさまざまな教えを学んだ」と前置きし、命あるすべてに注いだまなざしと、柁二の愛溢れる人間性を語った。講演内容を再構成して紹介する。

極限からの生還

― 応召した柁二は、山口県の下関から船で関釜海峡を渡る。疲れてうとうとしていると胸の底から熱く迫りくるものがある。父母の面影。長男として家を継ぐ者として生まれた

のに、何一つ親孝行できないうちに戦場に行く。《まどろめば胸どに熱く迫り来て面影二つ父母よさらば》。深さ、暗さ、重さを思うと、万感の思いが迫る。単純な歌だが、力のある歌だ。思いの、心の、力がある。

柁二は戦場で何を思い何を愛し、何を慈しみ、何を大事に思っただけを悲しみ、何に怒ったのか。《装甲車に肉薄し来る敵兵の叫びの中に若き声あり》。戦場のハイテンションの中で敵兵が「わっ」と叫びながら装甲車に肉薄してくる。叫びの中に若い声を聞き取った。この兵士にも自分がさらばといっただけで別れてきた親が、家族が、友人があるに違いない。自分同様、将来の夢がある。必ず敵味方があるという中で、こういう歌を作った一人の詩人の声に耳を澄ましたい。

昭和17年11月2日、師の北原白秋が亡くなり、戦場にいる柁二のもとに悲報が届いた。白秋の思いを振り切ったから白秋に別れを告げに行き、「柁二祈っている」という言葉をもらった。とてもその死を受け入れることができない。《こゑあけて哭けば汾河の河音の全く絶えたる霜夜風音》。慟

哭の「哭く」だ。師の死を悼んで慟哭した。霜の夜の縹緲とした風音の中で自分の慟哭、声を歌にした。ドラマチックな場面。

昭和20年8月終戦、9月に復員した。いったん横浜の自宅に戻るが、妻子の疎開先、妻英子さんの故郷富山に向かう。普通なら再会できてよかったと、家族団らんがありそうだが、とてもそんな気持ちにはなれず、妻子の顔を見てすぐに黒部溪谷に一人入っていく。《たたかひを終はりたる身を遊ばせて石群れる谷川を越ゆ》。柁二はどんな思いだったのか。一番近い人たちの言葉にならない言葉を総合すると、柁二は一度死に行っただのではないかということだ。体は自由になったが心は簡単に自由にはなれない。一度は精神的な死を



経験しなければ柁二は戦後の出発ができない。それほど心に深く葛藤と闇を抱えて帰ってきた。戦場で友人、先輩、後輩、たくさん死を見てきた。柁二自身も敵と傷つけ合うようなこともあっただろう。そういう自分が今、無事に帰って自由になったからといって、そんなに早く「戦後の気持ち」になることはできない。ずっと逍遙している、さまよっている。

復員から40年を経た昭和59年、朝日新聞が正月詠を依頼したときに詠んだ《中国に兵なりし日の五ヶ年をしみじみと思ふ戦争は悪だ》。柁二は、童謡的に作る歌以外は文語・旧かなで作っているが、これは「悪だ」という口語の断定だ。覚悟のほどが分かる。いかに気持ちを強く訴えたかが分かる。私もコスモスの仲間と一緒にこの歌を掲げて反戦の署名をしたことがある。先生の志を継ぎたい。

子を、妻を、父を思う

戦後、柁二は両親を背負い、子どもたちも背負って家族の生活を背負って必死に働かなければならなかった。夜も寝ないで歌を作らなければいけない。

わが子がいつもより早く寝たことを《幼子のこころにおかむ寂しさは何ならむこよひ早く眠りたり》と詠んだ。幼いなりにあの子の心に今

宿っている寂しさは何なのだろう、どんな思いがあつて早く寝たのだろうか。お子さんは奥さんに任せてという時代背景、とても優しさの深い人だなと思う。思春期になったときも愛のメッセージを贈っている。《萌えいでし若葉や棗は緑の金、百日紅はくれなゐの金》だ。若葉のころに光を受けて金色に輝く棗は棗で緑の金だと、百日紅は百日紅で紅の金だ。同じ輝いている若葉でも違つと。思春期は自分の心ばかりを覗いて自分のことで頭がいっぱいになり、自我を持って余す。そういう子供たちに「自然をごらんよ、美しい若葉をごらん」といつている。

会社勤めと作歌の二足のわらじを続けた柗二だが、体を壊すからと退職する。餞別にもらつた瀧口修造の絵を奥さんにあげた。《灯を明かく待ちぬし妻にたまもの絵を遣らん初めて愛をいはん》。まさか愛しているとは言わなかつたと思う。大正元年生まれの柗二らしい。口にしたのは感謝、「ありがとう」だと思う。それが愛の表現だつたのだろう。



小島ゆかりさん

柗二にとつては父親が子供に返つていく姿を見るのはとても切なものだ。父

を愛情深く歌っているのが《枇杷剥けば汁したたるを床の上ゆ眼放たず父が待つなり》。病の床にある父が、のどが渴いて枇杷食べたいと。枇杷を剥いて、つゆがしたたり落ちるのを父が子供のようになじつと見る。何とも言えない切ない気持ちが出来たことだろう。

生あるものへの慈しみ

柗二は命あるものを、その瞬間、瞬間を努力して力を合わせて生きていく姿を、働いている姿を愛した。《いろ黒き蟻あつまりて落蟬を晩夏の庭に努力して運ぶ》。柗二らしい歌だ。アリが集まつて自分より何十倍も大きい落ちゼミを、えっさえっさと運んでいく。「努力して運ぶ」と、昆虫たちの営為を「努力して」と歌つた人はほとんどいない。

胸にしまひ続けた思い 初恋の人のほかなけれ

柗二は17歳のとき、通学の電車の中で見染めた5歳年上の女性と激しい恋をする。初恋だ。ふたりは結婚したいほどの仲になるが、両家の強い反対に遭い、恋は実らなかつた。それが柗二の心の中にずっと残つていく。《白き霧木々に流れぬかの胸に柔稚乳も眠りたらむか》。「かの胸」と特定している。過ぎた記憶の中の恋愛の美しい幻影、幻想のような柔稚

《新しきとしのひかりの檻に射し象や駱駝はなにおもふらむ》も別の命への敬意をもつて何を思うらんという表現がとても豊かだ。新年の動物園。象やラクダがうろうろ行つたり来たり。彼らは今何を思っているのだろうか。自分が人にどう思われるかではなく、相手が何を思っているか。柗二の中にずっと流れていた思想はともささやかなまなざしから生まれている。

犬が雑草の花が咲き群れている空き地を歩く。偶然、犬がくしゃみをする。《雑草の花しらじらと咲き群る空地をゆけり噺する犬》。老いた猫は老いたくしゃみを、若い猫は若いくしゃみをする。そこには命の、生きていくものの命の、いと美しい姿がある。柗二の心に私はとても豊かな気持ちになる。

乳だつたのではないか。白い霧が木立の間に流れていく夜、あの胸には柔らかい初々しい乳房が眠っているのだろうか。とてもロマンチックでほのかに清潔なエロチシズムがある。その初恋の人も《わが若く恋ひたる人もはかなけれ二度童子とぞなりたまひたる》。柗二は最晩年、病気が重くなるにつれ、発語も不自由な状態が続く。自身も英子夫人も、この

先、余命はないのではないかと思ひ始めた。

忘れられず、たった一人ずつと柗二の心の中にあつた人。作品の中にぼつぼつと面影らしいものが歌われている。奥様の英子さんは思つた。最後にこの人に会わせてやりたい。愛情ですね。捜しだし、二人は一緒に訪ねる。けれどこの人は既に病院で療養状態だつた。そのときに柗二が書いたのが「50年目のめぐり逢い」。

《彼女は髪も白くなり、窓際のベッドに休んでいた。言葉ははつきりしているが、脳軟化症のため理解度は十分ではなかつた。妻が私の中学校のころの写真を差し出しても忘れてしまつていた》(30分ほどで私と妻は辞した。彼女は扉を出る私どもの方を見ようとほしなかつた。それでも私は会えてよかつたという安堵に似た思ひと、言うに言われぬ寂しさに、帰りは言葉もなかつた)

若い自分がひたぶるな思ひで恋をした人、そして相手も恋をしてくれた。その人も「ほかなけれ」。非常に深い詠嘆がこめられている。悲しみと、優しさ、そしていたわり。「二度童子とぞなりたまひたる」。子供に返り、柗二を忘れてしまつた相手に、それでも「二度童子」という優しい言葉を、「なりたまひたる」と敬語表現を使っている。そのことに感動す

る。柗二がどういふ人だったかよく分かる。言葉を通して人を愛し、自分の人生で縁のあった人をここまで大切に胸にしまいい続けて歌った一人の男性に対して、やはり敬意をもって私はこの歌を読んだ。

憧れと、ときめき

とてもロマンチックな歌が《昼間みし合飲のあかき花のいろをあこがれの如くよる憶ひをり》だ。昼に見た合飲の赤い花の色が、憧れの象徴、あるいは憧れの気持ちそのもののように思い出される。目を遠くするような感じの作品。合飲を「ねむ」ではなく固い音「コウカ」とで読ませている。「ねむの花」だと美しいが、少し青春の感傷に流れすぎ、甘さが強くなる。コウカ、アカキ、アコガレ、ゴトク。明るくて伸びのあるア行音と少し硬くて響きが清潔なカ行音が連続していくリズム。ただ甘い青春のセンチメンタリズムだけではない品格を持って響いてくる。

鳴しうち鳴しつあくがれて行く。なぜか分からないが、心の中の鉦を鳴らしながらどこかさまよい出ていく、ここではないどこかへ憧れ出ていく自分の心があるよという歌。

柗二のこの歌もやはりそれに近い。ここではないどこかへ今、憧れ出よう、さまよい出ようとする心というような意味。果たせなかつた恋、あるいは未知のこれからの自分の詩人としての人生が念頭にあつたかもしれない。いろいろなもの複雑に去来したに違いない。それらを含め「憧れ」という言葉を味わってほしい。

柗二がロマンチズムの白秋を師とし、その白秋は与謝野鉄幹・晶子の「明星」から出発した人だ。この歌と先に挙げた《白き霧…》のようなロマンチックな二首を見るだけでも、ロマンチズムが柗二にも流れていることがよく分かる。最後に私は《紫のつてせんの花を愛しみこし夏のときめき終らむとする》を選びたい。なぜか。ロマンチズムから出発した柗二が、もう一度ロマンチズムに帰っているからだ。

夏、紫のテッセンが咲いて自分がその花を愛でた。余命いくばくもない身ながらその花に慰められた。それを73歳の柗二が「夏のと

ときめき」と言い、それが「終らむとす」。ひと夏が終わることを、紫のテッセンの花を愛したその「ときめき」が終わるのだと言っている。

柗二は亡くなる直前までロマンチズムがずっとあつた。「昼間見し合飲：」と歌って出発した柗二が、最後に歌ったのが夏のときめきの、紫のテッセンの花への愛情の歌だつたというのが私はいはうれしい。「夏のときめき」が柗二の胸に戻っているのだと、そのことが詩人としての柗二の尊いものだと思う。

全ての命を尊ぶ

ロマンチズムから出発し、戦地を経験した自分の人生を深く見つめながら作風を模索して、腰の低いリアリズムの歌を歌い続けた。試行錯誤の中から柗二でしか歌えない大きなリズムとシンプルな内容の歌風を確立していった。私は大きな詩人の人生をそのように考える。尊敬する柗二の74年の人生の中で歌われたさまざまな歌、その中心にあるのが命へのまなざしであるかと思う。寂しいまなざし、優しいまなざし、悲しいまなざし、慈しみのまなざし、怒りのまなざし。最後はすべての命を尊ぶまなざしであつただろう。

巻菱湖

空海以来の天才書家

磯島 瑛俊(巻菱湖記念時代館顧問)

文化的偉人顕彰会のネットワーク事業の一環として、2022年1月15日、メディアシップ6階ナレッジルーム(新潟市中央区万代3)で開いた巻菱湖記念時代館の創設者・磯島瑛俊顧問による講演「化政文化の潮流から巻菱湖と浮世絵」の要旨を紹介します。

磯島氏は、江戸文化最盛期の文化文政期(1804~30)に活躍した巻菱湖(1777~1843)は広い学問に基づいた書家であり、この時代は同時に歌麿や広重などの浮世絵も全盛で、こうした文化が現代まで伝承されているのは和紙のお陰であると強調した。受講者は30人余。要旨は次の通り。

× ×
広い学問の上に築いた書

私は高校時代書道部に属し、北越書道会で楷書の特訓を受け、卒業後看板屋に就職した。29歳で独立し、49歳のとき巻郷土資料館新潟市西蒲区)で巻湖を知った。巻湖の細字や太字が紹介されていた。看板には肉太の文字が必要なので、巻菱湖が書いた職の文字などを見て回った。職は大きくて、しかも一発勝負の揮毫である。また東京や静岡、群馬などに残っている巻湖が書いた石碑を見て歩いた。にいがた文化の記憶館の神林恒道前館長の弟子萱のり子教授は「文字の本質は心と手的一致している調和」と指摘する。現代は書家が書道塾を経営しているが、文字に対する学問が不足と思われる。小手先の技術だけになっている。江戸期の寺子屋は読み書きそろばんに加え、しつけなど人間性を鍛える教育機関だった。

× ×
私は高校時代書道部に属し、北越書道会で楷書の特訓を受け、卒業後看板屋に就職した。29歳で独立し、49歳のとき巻郷土資料館新潟市西蒲区)で巻湖を知った。巻湖の細字や太字が紹介されていた。

巻湖は現在の西蒲区巻町福井で生まれ、19歳で江戸に上り書家・儒学者の亀田鵬斎入門、27歳で『書法論』を著し31歳で独立して塾を開いた。この間、

『大の坂に踊るをみななのうた声が
とぎれとぎれに聞えくるなり』

岩波書店「宮柵二集」より

歌人宮柵二は、一九二二(大正元)年八月二十三日、新潟県北魚沼郡堀之内町(現・魚沼市堀之内)に生まれました。本名は肇(はしむ)、家は書店「丸末」、父は文学を好み、雑誌『三峽』を編集発行していました。

一九二五(大正十四)年四月、新潟県立長岡中学校(現・長岡高等学校)に入学、在学中に相馬御風主宰の歌誌「木蔭歌集」への投稿を始めます。

中学卒業後、上京して北原白秋に師事。

一九五三(昭和二十八)年にコスモス短歌会

代表として歌誌「コスモス」を創刊しました。生涯に十三冊の歌集を刊行するとともに、宮中歌会始や多くの新聞・雑誌の投稿歌壇の選者を務め、短歌の普及に尽力しました。柵二は、「コスモス」創刊号に『みずからの生の証明を』と



下村正人館長

題する巻頭言を掲載、「われわれは作品によつてみづからの生を證

明したいと思ひます。」と宣言しています。

宮柵二記念館は、開館三〇年を迎えました。柵二が一九八六(昭和六十一)年に七十四歳で没した後、遺族から多くの資料が寄贈・寄託され、そうした資料を保管・展示し、宮柵二研究に資することにも、広く文化振興に寄与することを目指して一九九二(平成四)年に開館しました。その後も多くの資料が寄贈され、現在では、特別資料約二〇〇〇点、図書資料約

宮柵二生誕一一〇年

宮柵二記念館開館三〇年を迎えて

宮柵二記念館館長 下村 正人

八〇〇〇点を収蔵しています。収蔵資料を順次公開する企画展と宮柵二の書斎を再現し、柵二ゆかりの人々を紹介する常設展。宮柵二講座や短歌セミナーなどの定例講演会、月例の短歌教室や学校での短歌授業など、短歌の普及活動にも力を入れています。

さて、宮柵二記念館全国短歌大会は今年で二十八回目を迎えます。例年一万二千首余りの応募があります。学校生活の大半をコロナ禍で過ごしている児童生徒から



宮柵二歌碑「母のうた 新年同詠母 應制歌
宮壁上冬夜の吹雪をおそれたるわれを小床に抱きしめし波」=宮柵二記念館

の応募歌には、コロナ禍を詠んだものがたくさんあります。一年目は否定的な内容ばかりでしたが、

二年目からはコロナ禍での積極的な生活を歌うものが増えてきました。詠むことをとおして自らの生活を見つめている姿

が浮かんできます。

冒頭に掲げた短歌は、『木蔭歌集』第二巻四輯(一九二九年)に掲載された柵二の歌です。二〇二二(令和四)年十一月三十日、魚沼市堀之内に伝わる盆踊『大の阪』のユネスコ無形文化遺産登録が決定しました。『大の阪』は、江戸時代中頃から堀之内に伝わる踊りで、お盆に八幡様境内に櫓を立て、その周りで踊られます。青年柵二もその歌を聞き、時に踊りの輪に加わっていたのではないのでしょうか。

書論・書法に加え漢詩、六書(漢字の造字と運用の原理6種類をまとめた本)、爾雅(漢代の辞書)、説文解字(最古の部首別漢字字典)など学び続けた。

この時代は幕府も文化を奨励し、浮世絵の北斎、歌麿、広重はじめ、和算学の関孝和、天文学家・地理学者の伊能忠敬、文人画の谷文晁など天才たちを生み出した平和な時代だった。

菱湖も篆書、隸書、楷書、行書、草書、仮名、飛白の7書体を書き、手本200種以上も出版した。平明で端麗な書風の菱湖流は諸侯、公卿、宮家に重宝され千字文などにより世に広まり手本に用いられた。幕府の右筆(文書の作成・記録に携わる職)から「弘法大師以来の逸材」と評価され、塾の弟子は1万人余だったという。

菱湖は書がうまいだけの書家ではなく、学問を究めたからこそ成功した人物である。江戸中の大家も見えない膨大な資料を学んでいる。京都では青蓮院門主の招きで嵯峨天皇、最澄、空海らの名

蹟を、近衛家では秘宝の「伝智知草書孝経」も見ている。菱湖流は幕末から明治の書道界に大きな影響を与え、明治政府も官用文字として採用し、小学校書道教科書の主流になった。現在の将棋の駒文字も源流は菱湖文字である。

こうした江戸文化の最盛期に浮世絵も花開いた。浮世絵は西洋絵画のように額に入れて距離を置いてみるものではなく、髪の毛や着物模様の手でなぞりながら手に取って見るもの。

和紙だから残る

浮世絵も菱湖の書も、また千年前の文書を現代も見ることができるのは和紙に書かれているからである。西洋紙が主流となり、その書類は100年ともたない。明治は日本独自の製紙文化を壊してしまっただろう。雁皮などをもとにした和紙文化を発展させ守ってゆきたいものだ。デジタル化されて我々の文化は残念ながら孫の世代には伝わらないだろう。(文責・武藤斌二顧問)

文学への志を貫く

直木賞作家・鷺尾雨工の作品と生涯

五十嵐政人さん講演

4年度企画展「直木賞作家 人第1号鷺尾雨工 人と作品」を記念して、4年6月5日、鷺尾雨工の文学碑を建てる会事務局長の五十嵐政人さんによる講演会

「鷺尾雨工の文学と生涯」を開いた。作家直木三十五と雨工の関係を軸に、生活苦の中にあつて多くの歴史小説を残した雨工の生涯を語った。要旨を紹介する。



講演する五十嵐政人さん

雨工は、現在、新潟市西区の黒鳥というところの庄屋の分家に、明治25（1892）年に生まれた。父と祖父がお医者さんだった。ところが火事で焼け出され、悪いことに借金を保証人になったため、ほとんど田畑をなくす。雨工3歳のときだった。さらに、父親も祖父も亡くなり、黒鳥から母親の実家のある小千谷郊外の山谷にある地主の中野家に行った。

鷺尾家には、特に村上藩士の娘だった祖母には、孫の雨工に家の再興を託したい

という強い思いがあつた。幼い雨工に歴史ものなどの本を読み聞かせたのがこの祖母だった。

進学、直木との出会い

雨工は、旧制小千谷中学校を出て大学に入る。文学の志を持ってあえて東大に行かず、早稲田の英文科を選んだ。当時の英文科は二つのクラスがあつて、一つは学校の先生を目指す人、もう一つは作家になりたいという人たちが通つた。西条八十、直木三十五、細田民樹、保高德蔵、細田源吉らが同級生だった。

雨工は母と祖母と、一家で上京した。大学4年間はゆうに暮らせる金を持つていった。雨工はその金でたくさん洋書を買う。英語が得意で学生時代、翻訳家として本を出しているくらいだ。

大学に入つてすぐに直木と出会つた。直木も波瀾万丈の人だ。学生時代に芸者さんと結婚して子供ができた。実家は大阪の古着屋だから経済的には豊かではない。それで直木は大学を中退する。当時、早稲田の教授に相馬御風が

いた。雨工は御風の紹介で化粧品会社に就職する。月給40円、相当高給だったらしい。

退学後の直木は春秋社という出版社の設立メンバーの一人になり、雨工を引き抜いた。直木は才能があつた。映画を作つたりもしている。春秋社はトルストイ全集を出した。これが爆発的にヒットして、もうかつた。

出版事業がとん挫

大正8（1919）年、直木が冬夏社を作ることになった。しかし、金がない。直木は雨工の金を当てにして声をかけ、雨工も出版をやれたら家を再興できるかもしれないと応じた。

このとき雨工は中学校の同級生で衆議院議員関矢孫一に頼んで5万円、今の金で1億から2億円用意する。そしてビクトル・ユゴー全集を出したが、トルストイほど当たらなかつた。

直木は浪費家で、会社の金を使つて遊び回っている。雨工はお坊ちゃん。一緒になつて遊んでしまふ。5万円がどんどん減つていく。逆に同じくらいの借金を背負う。そこへ関東大震災が追い討ちをかけ、会社はなくなる。直木は大阪へ帰つた。

作家への夢、苦難の日々

雨工は小千谷に帰つて中野家の経営していた酒蔵でビアガーデンをや

深刻 新型コロナ感染症の影響

新型コロナウィルス感染の広がりによる影響を美術館・博物館、個人顕彰施設・団体にお尋ねし、お答えいただいた。状況が深刻であることは容易に想像がついたが、結果にもそのことがはっきり表れた。（5年1月時点）

依頼 51の県内施設・団体
回答 37施設1団体

「入館者数の減少についてコロナ前との比較（1団体除く）。

減少割合6割…3館

5割…5

4割…4

3割…10

2割…3

1割…2

数字なしの「減少」（2）（以下カッコ内数字は回答数）、特に大きな変動なし（3）、開館したばかりで比較不能（1）、記述なし（3）、コロナ前より増えている（1）。減少したところはコロナ前はまだ戻っていないとの回答がほとんど。

「増減の内容、印象、特徴

大半が団体客、県外客の減少を挙げている。ほか、高齢者や総合学習の生徒減（5）、職場体験の減（1）、団体客は減つたが「1人」の客が増えた（1）。修学旅行や自然学習の生徒が増えた（1）、顕彰人物を取り上げた新聞小説のおかげで変化があつた（1）。土産物販売が激減（1）、貸出冊数減（1）。

ありがとうございます

る。しかし、作家になりたい気持ち
を捨てきれない。直木の活躍が耳に
入る。大正14年5月再び上京したも
の、仕事がなく職を転々。おでん
屋を2年。遊びに来てくれた作家の
中に、当時売れっ子の戯曲家の眞山
青果がいた。雨工は戯曲も好きだっ
た。で、足利尊氏を書いた。これが
後の吉野朝太平記につながる。

保険の外交もやった。昭和の初めこ
ろは円本ブームで小説が売れ、おでん
屋時代の縁で作家をはじめいろんな人
が保険に入ってくれては食いつないだ。
一方の直木は一世を風靡して、車
を買って運転手付きで豪遊していた。

その直木が昭和9年、急死する。雨
工に追悼記事の依頼が来たので書い
た。題名は「人間直木的美醜」だっ
たが、「美」はなく「醜」ばかり。雨
工の言い分はこうだ。自分が歴史、
文学を教えたから直木は作家になれ
た。冬夏社を作ったときは金を出し
た。なのに、自分が金に困って飢え
死にしようなときに金を借りにいっ
たら、冷たくあしらわれた。雨工の
怒りはかなりのものだったようだ。

筆名雨工、直木賞受賞

もの書きで行くしかない書き始め
たのが昭和10年春。古い師に本名の浩
では芽が出ないと言われ、妻の倫子さ
んの勧めた「雨工」をペンネームにし



た。雨工というのは上り竜という意味。
万年筆が買えず原稿用紙に筆で
綴ったのが、楠木正成の三男で歴史
上ほとんど知られていないが南北朝
統一に権謀術数の限りを尽くした楠
木正儀、この人物を主人公にした大
河小説だった。

妻倫子の勧めで「吉野朝太平記」と
題された作品を春秋社に持ち込む。初
版は売れた。第2巻を出す。売れた。
それを聞きつけた菊池寛が、短編を
書いてみないかと雨工を誘った。新人
を発掘しなかったからだ。書いた短
編がオール読物に載った。菊池の期
待に応え、昭和11年3月、「吉野朝太
平記」は第2回直木賞を受賞した。

雨工はそれ以降、精力的に本を書

いている。10年弱の間に50冊。西早
稲田に自宅を購入し、小説家として
一家をなした。

困窮と幸せの「コマ

しかし、不幸が多かった。息子たち
や親友関矢孫一の死が続き、自身も病
気で入院して思うように書けない日々。
それでも昭和20年1月から新潟日
報に「直江兼統」を連載し、同時に
2月から「上杉謙信」を書いている。
「謙信」は前年から別の新聞社に連載
していたものを日報にも書くように
なったのだが、戦争が激しくなっ
て中断した。

雨工は昭和26年2月、困窮の中で
亡くなる。

不遇に見える生涯だが、新婚のこ
ろ、長男の誕生、夫婦で京都旅行し
たとき、銀座を歩いている幸せそうな
様子が写真で残っている。直木賞受賞
を幸運と言っただけではないが、いいこ
とはそれ以外にもある。次男を看病
してくれた看護師サダさんが、戦後す
ぐ鷺尾家に養子として迎え入れられ、
西早稲田にある鷺尾家を守り続けた。
塩浦林也先生が雨工を調査研究
し、15年かけて「鷺尾雨工の生涯」
をお書きになったことも慶事の一つ
だ。この本には感動した。雨工の性
格、人生、文学が浮かび上がって
く。ぜひ読んでほしい。

アンケートへのご協力

【Ⅲ】新たな取り組み・対策

オンラインツアーの実施、フェ
イスブック、ツイッターの開始、
無料WiFiの設置やアニメ漫画
を取り入れた若者向け広報ツール
拡充の検討、紙(券)ではなくホー
ムページ(HP)や看板の撮影画
像の提示による割引方式、開館時
刻繰り下げ、解説ツアー。

一方、入館者の滞在時間が長く
なって「密」とならないよう、展
示パネルを増やさず持ち帰り用プ
リントを作成(1)。

受け入れ停止(1)、開館日を減
らした(1)、営業を縮小した(1)。

【Ⅳ】情報発信手段

チラシポスターはほぼどこでも
実施。HPやSNSも、多くが活
用しており、機関誌(館報、会報)
は館・団体を含め8カ所が発行と
回答。

【Ⅴ】課題・悩み

入館者の減少と増加策(10)、非
来館型サービスの充実(1)、人員
削減・人材不足・職員不足・高齢
化、予算削減・経費増大(7)、会
員減少、愛好家、ボランティアの
高齢化、若年層の取り込み(4)、
設備老朽化と更新(5)、関心の低
下(3)。多人数参加型イベントの
復活時期、地域や学校との連携・
浸透。顕彰館の存在意義を認めて
ほしいという意見あり。

NST News タッチ

NST 月～金曜 午後6時09分放送

日本最大級223学科423コース

カナエルチカラ、29の専門学校。 **NSGカレッジリーグ** 検索
<http://mydreams.jp/>

時代のニーズが生んだ最先端の大学

| | | |
|-------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|
| 事業創造学部 起業/企業内起業/ 事業承継/商品開発/ 店舗経営/マーケティング/ 経営企画 | 情報学部 AI/IoT/ロボティクス/ データサイエンス/ サイバーセキュリティ/ クラウド/アプリ開発 | アニメ・マンガ学部 アニメ/マンガ/ゲーム/ キャラクターデザイン/ 出版編集/企画・プロデュース/ 3DCGクリエイター |
|-------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|

開志専門職大学
KAISHI PROFESSIONAL UNIVERSITY

遠藤実記念館「実唱館」

開館時間 10:00～17:00
 休館日 火曜日(祝日は開館、翌日休)、年末年始、夏季休暇
 所在地 〒953-0012 新潟市西蒲区越前浜6913-1
 TEL 0256-77-2777 FAX 0256-77-2776
 ホームページ <http://www.minoru-endo.com/>

會津八一が愛した
新潟の和菓子

里仙

本店 / 新潟市中央区古町13
 ☎(025) 228-9234(代)

コニカミノルタNC株式会社

本社 〒950-0141 新潟市江南区亀田工業団地1-2-13
 TEL (025)383-3000 FAX (025)383-3001
 URL <http://www.konicaminoltanc.jp>
 富山支店 / 長岡営業所 / 新潟田営業所 / 上越サービスステーション
 業務内容: コニカミノルタ複合機 bizhub・医療機器・
 商用印刷機の販売及び保守
 イベント機器のレンタル 他

大光銀行

〒940-8651
 長岡市大手通1丁目5番地6
<http://www.taikobank.jp/>
 大光銀行 検索

株式会社 新宣

<http://shinsen.biz>
 info@shinsen.biz

本社 〒950-0983 新潟市中央区袖道寺2-3-23
 TEL:025-243-6827 FAX:025-241-0768
 朱鷺メッセ営業所 〒950-0078 新潟市中央区万代島5-1 万代島ビル16F
 TEL:025-243-7040 FAX:025-243-7041

株式会社タケシヨー
 TAKEGISHI FOOD & ENGINEERS INC.

「おいしさを科学する」

QRコード

第四北越銀行

サステナブルな社会の実現に貢献します

ALSOX 新潟総合警備保障株式会社

大切な人を
守りましょう

サンキューツヨイミカタ
 ☎ 0120-39-2413(年中無休)
 〒950-8633 新潟市東区小金町1-17-20

いままでよりこれから

帝京長岡高等学校

〒940-0044 新潟県長岡市住吉3-9-1
 TEL 0258-36-4800 / FAX 0258-36-4715
<https://www.teikyo-nagaoka.ed.jp>

にいがたの誇り「文化力」

お客様に感動を、社会と文化に貢献を

FUJIFILM
株式会社 **新潟フジカラー**

新潟市東区幸栄2丁目23番16号
TEL: 025-275-1341 FAX: 025-271-1402
<https://www.fuji-icom.co.jp>

ドコモショップ新潟南店 新潟市中央区上近江1-3-7 TEL: 025-288-0053
ドコモショップ新潟東店 新潟市東区新松崎1-7-5 TEL: 025-256-7522
ドコモショップ新潟中野店 新潟市東区若菜町2-4-5 TEL: 025-282-7752

新聞販売 折込総代理 広告代理 出版 保険代理

M **新潟日報メディアネット**
Niigata Nippo Media Net

■ **黒埼本社**
〒950-1179 新潟市西区善久 772-2
新潟日報社黒埼本社内
TEL: 025-211-3555 (代表) FAX: 025-211-3556

■ **流通本社**
〒950-1125 新潟市西区流通 3-1-1
TEL: 025-233-3311 (代表) FAX: 025-233-3700
<https://www.niigata-mn.co.jp>

ニッポンの朝が見える。

THE TIME,

月-金
あさ 5:20 - 8:00

BSn

あしたへ、あなたへ。

日生不動産
GROUP

新潟市中央区上近江4-1-3
TEL: 025-285-1010 (代)
FAX: 025-285-1012
www.nissay-re.net

新潟税理士法人 **深滝合同事務所**

| | | |
|------------|--------------|---------------------------------------------------------|
| 代表社員 (税理士) | 磯部 利行 | ■ 公益認定・移行申請手続支援業務 |
| 副所長 (税理士) | 上田 英明 | ■ 指定管理者申請手続支援業務 |
| 副所長 (税理士) | 根本 昌幸 | ■ 法人税・所得税・相続税・各種会計指導・ 適正税制・公益法人会計・税務申告・ 各種税金申告相談等 |
| 社会保険労務士 | 桑野 光洋 | ■ 経営計画・資金計画・経営指導・ 生命保険・損害保険等 |

〒950-2024 新潟市西区小新西3丁目15番7号
TEL: 025-267-4843 FAX: 025-265-3314
URL: <https://niigata-zeirishi.tknf.com/>

地に足をつけたしごと。

HIROSE

株式会社 **廣瀬** 新潟市西区善久823 TEL: 025-377-1500
<https://www.hi-rose.co.jp>

住まいを通じて生涯のおつきあい

MISAWA **ミサワホーム北越**

〒951-8533 新潟市中央区関新2-1-53
TEL: 025-232-3330 <http://hokuetsu.misawa.co.jp/>

総合広告会社

株式会社 **フジ・クリエイティブセンター**

〒950-0993 新潟市中央区上所中3丁目11番8号
Tel: 025-283-6000
<https://www.fuji-cc.co.jp>

ニュースサイト **新潟日報** デジタルプラス

地域に **プラス**

地域ニュースは市町村ごとに分類

記者が集めた新潟県内各地のニュースを、市町村ごとに読むことができます。各地域の展覧会など、催しものをお伝えするコーナーもあります。

新潟日報購読中のみなさまは
月 **100** 本まで **無料**
未購読者は 月額 **980** 円 (税込)

詳しくはこちらから www.niigata-nippo.co.jp

発信します 伝えます

新潟県内の 文化人顕彰施設・団体からの PR情報

PR情報

佐渡、下越（新潟市含む）、中越、上越の市町村別（新潟市は行政区ごと）に、50音順に掲載。開館日、開館時間など詳細は各施設・団体にお尋ねください。各館の情報は、にいがた文化の記憶館ホームページでも紹介しています。

00 館名／団体名

顕彰している新潟ゆかりの文化人

住所
電話番号

PR情報

PASS

…この館で「新潟文化の記憶館パスポート」を提示いただくと割引が受けられます。また、この館の「平券」を当館で提示いただくと入館料を団体料金に割り引きします。

1 佐渡博物館

土田麦傳／佐渡ゆかりの人物

佐渡市八幡2041
0259(52)2447

佐渡の自然・歴史・文化を学べる総合博物館。7月から竹細工、11月から佐渡の美術・工芸のうちの小品作品にスポットをあてた企画展を開催します。また、4月から通年で佐渡市内の博物館等に収蔵されている土田麦傳資料を展示します。

2 佐渡歴史伝説館

佐々木象堂

佐渡市真野655
0259(55)2525

佐渡生まれの鑄金家で、各種展覧会でつねに上位の賞を獲得するとともに『瑞鳥』『采花』は日本伝統工芸展最高賞を受け、蛸型鑄造技術部門で重要無形文化財保持者（人間国宝）に認定されました。その名作の数々をご覧ください。

3 平出修研究会

平出修

新潟市東区中野山4-2-119
090(1125)1058

会の活動計画として「生誕地である東新潟エリアの地元の皆様との連携企画」の実施。講演会企画では「修と①与謝野鉄幹・晶子②石川啄木③森鷗外」を中心にしてまいります。2028年は平出修生誕150年です。

5 安吾 風の館

坂口安吾

新潟市中央区西大畑町5927-19
025(222)3062

新潟市出身の作家、坂口安吾を顕彰するため、旧市長公舎の建物で年3回の企画展を開催しています。大正11年建築の木造平屋建ての全国的にも希少な市長公舎と、安吾の作品、取材旅行、交友関係等のテーマ展示をご覧ください。

6 安吾の会

坂口安吾

新潟市中央区八千代2-1-1
新潟市民映画館シネ・ウインド内
025(243)5530

1987年10月20日発足。会報「安吾雑報」、研究誌「安吾探索ノート」発行。「新潟安吾忌」を主催するほか、読書会や街歩きを実施。「安吾生誕祭」企画・運営。読書会、定例会の日時・会場は直接お問い合わせください。

8 全国良寛会

良寛

新潟市中央区南浜通2
北方文化博物館新潟分館内
025(222)2262

令和5年6月17日、東京都千代田区神田駿河台の全電通労働会館で東京大会を開催します。記念講演会や各地良寛会の報告、民謡などのアトラクション等が行われます。良寛に関心のある方で入会希望の方は、右記の住所、電話番号に連絡をください。

9 敦井美術館

敦井榮吉

新潟市中央区東大通1-2-23
北陸ビル
025(247)3311

近・現代の日本画・陶芸を中心に、洋画や彫刻・木漆工芸など幅広い所蔵品による企画展を年4回開催しています。2023年度は、開館40周年を記念し「日本美術院の名品展」板谷波山展」などを予定しております。

10 新潟県立図書館

全般

新潟市中央区女池南3-1-2
025(284)6001

1915年の創立から収集してきた蔵書95万冊のうち、約14万冊が新潟県人関係資料を含む郷土資料です。当館ホームページで公開している越後佐渡デジタルライブラリーでは、貴重な郷土資料を画像でご覧いただけます。

4 巻菱湖記念時代館

巻菱湖／館柳湾／亀田鵬斎／中沢雪城など

新潟市東区河渡庚296-33
080(4159)2581

平成30年度、新潟市西蒲区の峰乃白梅酒造から『日本酒・菱湖』が発売され、令和4年、全国の酒販店と居酒屋での総販売数が12万本に達しました。年間を通しての定番酒と四季折々の限定酒の展開となっております。詳しくは当館のホームページをご覧ください。

7 秋艸会

會津八一

新潟市中央区万代3-1-1
メディアシップ5階會津八一記念館内
025(282)7612

秋艸道人・會津八一を顕彰し文芸に触れる新潟市會津八一記念館友の会です。会報「秋艸」を年2回発行。記念館の企画展等を紹介し八一に関する投稿掲載など全国の会員を繋いでいます。命日（11月21日）には「秋艸道人忌」を主催。

11 新潟市會津八一記念館

會津八一

新潟市中央区万代3-1-11
メディアシップ5階
025(282)7612

世界のムナカタと称した板画家・棟方志功の生誕120年を記念した特別展を秋に開催。志功の板画、肉筆画、書作品を中心に八一との合作や書簡等、二人の交流についても紹介。また3回の企画展でも多分野で活躍した八一の業績を顕彰してまいります。

12 新潟市立中央図書館(ほんぼーと)

會津八一／坂口安吾／中田みつほ／吉屋信子／鷺尾雨工など

新潟市中央区明石2-1-10
025(246)7700

顕彰人物である5人を中心に、新潟市ゆかりの文人についての関連資料を収集しています。2階特別コレクション室では、新潟市ゆかりの文人などをテーマに、出版当時の貴重な資料を含めた企画展を年数回実施しています。

13 新潟市歴史博物館(みなとびあ)

全般

新潟市中央区柳島町2-1-10
PASS
025(225)6111

春の企画展では、幕末から明治にかけて活躍した沼垂出身の画家長井雲坪を取り上げます。長崎で画を学び、晩年は長野の人々に求められて善光寺裏に居を構えました。長野所在の一大コレクションを展示し、その魅力をご紹介します。

14 新潟大学旭町学術資料展示館

中田瑞穂ほか

新潟市中央区旭町通2番町746
025(227)2260

第3代(現)萬代橋と同じ1929(昭和4)年竣工の国登録有形文化財の館内で、新潟大学が学術研究を通して収集・蓄積した考古資料・標本類・実験器具などを常設展示するとともに、様々な分野の企画展も開催しています。(月・火休館)

15 新潟良寛会

良寛

新潟市中央区古町通4
考古堂ビル内
025(229)4058

毎年4月に総会と記念講演会、良寛・貞心尼法要、講演会開催。秋に研修旅行、良寛講座3回。良寛碑・像の清掃ボランティア、良寛さんと手まりつき大会。◎会員募集(会費・年2千円)。◎行事には会員以外の参加も歓迎。

16 ふるまち良寛てまり庵

良寛

新潟市中央区古町通2-5-38
025(378)2202

国上山で山中独居の生活を送った良寛は、新潟市の古町にも歩いて来ております。悟りをひらいた高僧の思想にふれると共に、国の重要文化財ともなった書や漢詩、和歌など良寛の生き様を学ぶ資料も展示してお待ちしております。

17 北方文化博物館

伊藤家ゆかりの人物／その他

新潟市江南区沢海2-1-5-25
PASS
025(385)2001

越後随一の大地主、伊藤家の遺構を博物館として公開しています。1882年から8年をかけて建設された大邸宅、大広間から眺める池泉回遊式庭園など、新潟の四季とともに地域や地主の歴史、所蔵美術品を紹介しています。鎌倉時代の高僧・雪村友梅の書軸「梅花詩」(重要文化財)を所蔵。

18 吉田文庫・ちあきの会

吉田千秋

新潟市秋葉区大鹿624
025(23)7070

琵琶湖周航の歌・原曲作者、吉田千秋の生家は通常非公開とさせて頂いておりますが、学校、コミ協等のみなさんの研修を受け入れております。ただ、建物、庭、遺品の維持管理のため、期待に沿えない場合もあります。

19 新潟市曾我・平澤記念館

曾我量深／平澤興

新潟市南区味方2-1-3-1
025(373)6600

記念館では、旧味方村名譽村民「曾我量深(第17代大谷大学学長)」、「平澤興(第16代京都大学総長)」おふたりの愛用品や出版物他、功績を讃える遺品を展示しています。

20 雪梁舎美術館

新潟県ゆかりの美術家

新潟市西区山田451
025(377)1888

86畳敷きの展示室を有する美術館です。新潟県ゆかりの美術家の作品を収蔵し展示、マイセン磁器とシヤガールの版画は常設展示しています。また美術育成を目的とした全国絵画公募展「フイレンツエ賞展」を毎年開催。2023年は、雪梁舎設立30周年記念の展覧会を企画しています。

21 越佐文人研究会

良寛・會津八一の周辺人物

新潟市西蒲区下山340-2
0256(88)5335

阿賀野市、長岡市浦、胎内市、出雲崎町における文芸家の顕彰企画を立案、11月中旬に総会及び記念講演会を開催します。

22 遠藤実記念館 実唱館

遠藤実

新潟市西蒲区越前浜6913-1
0256(77)2777

昭和歌謡の聖地として「北国の春」「高校三年生」「雪椿」等々、五千曲余りを世に送り出した作曲家・遠藤実の足跡を展示した記念館。カラオケ喫茶で歌うことも出来ます。日本庭園風のお庭にリニューアル致しました。

23

新潟市潟東樋口記念美術館 新潟市潟東歴史民俗資料館

赤塚不二夫／尾竹三兄弟／金子孝信

新潟市西蒲区三方92
0256(86)3444

多岐に渡る樋口顕嗣氏寄贈作品・郷土ゆかりの作家作品（赤塚不二夫・尾竹三兄弟・安宅安五郎・長谷川秋一郎・福富雪底他）・金子孝信作品・ありし日の潟資料を展示しています。また、秋には特別展を開催する予定です。

26

刀剣伝承館 天田昭次記念館

天田昭次

新発田市月岡温泉827
0254(32)1121

人間国宝・故天田昭次氏が月岡の地で挑んだ、自家製鉄による独創的な刀剣製作。鍛刀技術の追求の結晶を収蔵しています。太刀、脇差、短刀など、一般的な刀剣のみならず、七支刀などの特殊な形状をした刀剣も展示しています。

29

燕市分水良寛史料館

良寛

燕市上諏訪919
0256(97)2428

良寛書の中でも珠玉の名品といわれる国・県指定文化財の作品を春、秋の二回特別展として公開し、県内外の多くの人々から良寛芸術の真髄に触れてもらい、良寛を支えた地域の人と文化風土を再認識し、学習する場とします。

32

国指定重要文化財「渡邊邸」

渡邊萬寿太郎

関川村下関904
0254(64)1002

渡邊家11代当主の渡邊萬寿太郎は、現在の六三三制学校制度の礎となる「関谷学園」の創立に尽力しました。旧関谷村長として、江戸初期から続く渡邊家の「家の掟」に基づき、地域振興・文化発展に貢献しました。

24

新潟市中之口先人館

羽黒山政司／小柳司氣太／大川博

新潟市西蒲区中之口363
025(375)1112

中之口出身でさまざまな分野で活躍した先人の業績を示す資料を展示しています。特に第36代横綱羽黒山政司の資料がたくさん展示されています。ほか小柳司氣太や大川博の資料も展示しています。

27

蒨谷虹児記念館

蒨谷虹児

新発田市中央町4-1117
0254(23)1013

落谷虹児は、新発田市の出身。大正から昭和にかけて活躍した挿絵画家・詩人です。日本画を学んでいた若き蒨谷虹児は、竹久夢二にその才能を見出され、挿絵画家としてデビュー。虹児の生涯を、戦前戦後バリ時代までを代表作品で紹介。

30

阿賀野市立吉田東伍記念博物館

吉田東伍

阿賀野市保田1725-1
0250(68)1200

吉田東伍は日本全土の地名を網羅する『大日本地名辞書』を独力で編さんした歴史地理学のパイオニアです。彼はまた、世阿弥の伝書を発見し、能楽界に画期的貢献をするなど、日本文学史上ひとときわ異彩を放つ野人学者でした。

33

三条市歴史民俗産業資料館

岩田正巳／渡邊義雄

三条市本町3-1-4
0256(33)4446

当館は昭和10年建設の旧武徳殿（武道場）を利用した日本でも珍しい国登録有形文化財の資料館です。三条市の歴史や文化、産業を和洋折衷の建造物と共に学ぶことができます。是非お越しください。

25

市島邸

市島家ゆかりの人物

新発田市天王1563
0254(32)2555

市島邸資料館では、市島家の歴史を伝える企画展示を行っております。600坪に及ぶ県指定文化財の母屋と桜や約150本の梅の花・紫陽花・紅葉・雪景色など、四季を通して魅力的な回遊式庭園をお楽しみください。

28

燕市長善館史料館

鈴木文臺／鈴木虎雄／長善館ゆかりの人物

燕市粟生津97
0256(93)5400

長善館は、1833年から1912年までの80年間に1000人以上の人材を輩出した私塾です。館内には、塾の歩みや特色ある教育内容、卒業生の業績等を紹介しています。文化勲章を受章した鈴木虎雄博士の漢詩や遺品なども展示しています。

31

春城会

市島春城

阿賀野市山口町2-3-25
春城生誕160年を記念して4年9月、

生家離れ跡地に宿願の胸像建立が成った。「館」はないが、顕彰と跡地保全のモニタメントができたので一人春城にとどまらず広く郷土の先人に光を当て、歴史・文化情報の受・発信の拠点にしていきたい。

34

諸橋轍次記念館

諸橋轍次

三条市庭月434-1
0256(47)2208

世界的な偉業と讃えられた『大漢和辞典』の編纂者、諸橋轍次。座右の銘は『論語』の「行不由徑」。自然豊かな故郷をこよなく愛し、漢学研究と教育の大道をひたむきに歩んだ諸橋轍次の生涯や功績、その人柄を紹介しています。

35
駒形十吉記念美術館
駒形十吉

長岡市今朝白2-1-1-4
0258(35)6111

当館は、実業家駒形十吉晩年のコレクションを収蔵・展示する美術館です。2023年前期は平山郁夫の代表作を中心に展示、後期は茶道にも興味を示した駒形の収集した陶器をご覧いただけます。駒形の幅広いコレクションをお楽しみください。

36
長岡市河井継之助記念館
河井継之助

長岡市長町1丁目甲1675-1
0258(30)1525

河井継之助の生家跡に建つ記念館で、継之助が暮らした当時の面影が残る庭を眺めることができます。西国遊歴の際に記した旅日記『塵壺』や旅先の九州で購入した蓑などゆかりの品を多数展示しています。

37
新潟県立近代美術館
全般

長岡市千秋3-278-114
0258(28)4111

長岡市の「千秋が原ふるさとの森」にある美術館。地元の収集家による「大光コレクション」を軸に、近代の流れを見通せる国内作品や19世紀の西洋美術、県出身作家を主とした「新潟の美術」など、多くの名品がそろいます。

38
新潟県立歴史博物館
全般

長岡市関原町1丁目
字権現堂2247-2
0258(47)6130

常設展示では縄文展示を中心に新潟県の歴史と文化を紹介。昭和30年代の雪国の雁木通りや、縄文人の四季の暮らしを实物大で復元しており、タイムスリップした気分を味わえます。様々なテーマによる企画展等も開催しています。

39
良寛の里美術館
良寛／由之／貞心尼

長岡市島崎3938
0258(74)3700

今年度は、「良寛をめぐる人びと展」と市民のみならずから参加していただく「地域の所藏品展」を企画しました。特別展として堀口大学、松岡譲らに影響を与えた西郡久吾と相馬御風を基軸に良寛と貞心尼を敬愛した長岡ゆかりの人びとの思いを探ります。

40
ドナルド・キーン・センター 柏崎
ドナルド・キーン

柏崎市諏訪町10-17
0257(28)5755

80年近くを日本文学研究に費やしたドナルド・キーン先生の人となり・業績等を紹介しています。今年には開館10周年にあたり、記念特別展「未来への伝言―高橋義樹、ドナルド・キーンの太平洋戦争―」を開催します。

41
魚沼市 宮柵二記念館
宮柵二

魚沼市堀之内117-6
025(794)3800

魚沼の風土が育んだ昭和を代表する歌人宮柵二の遺品や図書資料を収蔵・公開しています。柵二の書を再現する常設展、テーマに基づく企画展、定例の宮柵二講座と短歌セミナー、月例短歌教室などを開催しています。全国短歌大会は二十八回を数えました。

42
池田記念美術館
池田恒雄／その他

南魚沼市浦佐5493-3
025(780)4080

スポーツ専門誌を創刊し出版業界で活躍した池田恒雄がコレクションした美術品やスポーツ関係資料を収蔵、展示しています。その他文豪小泉八雲の手紙や遺愛の品などを展示する小泉八雲文字資料室もあります。

43
鈴木牧之記念館
鈴木牧之

南魚沼市塩沢1112-2
025(782)9860

豪雪地に生まれた鈴木牧之は、雪深い生活を伝えるため雪の本『北越雪譜(天保8年刊)』を出版しました。雪国の民俗習慣、伝説、産業などについて著された本書は、江戸でベストセラーとなり、当館を代表する展示となっています。

44
南魚沼市トミオカホワイト美術館
富岡惣一郎

南魚沼市上葉師堂142
025(775)3646

上越市高田出身の洋画家・富岡惣一郎が描いた「白の世界」シリーズを展示しています。雪の白に魅了され、自ら開発した白油絵の具「トミオカホワイト」と独自の技法で表された白の美をご覧ください。

45
良寛記念館
良寛

出雲崎町大字米田1
0258(78)2370

良寛記念館は、僧侶で書家・歌人でもあり「越後の英雄」と呼ばれた良寛の出生地の出雲崎町に在る美術館です。年に3回ほどの企画展を行い「日本書道の究極美」といわれる良寛の遺墨をご紹介します。

46
湯沢町歴史民俗資料館「雪国館」
川端康成／その他

湯沢町大字湯沢354-1
025(784)3965

令和5年度は大規模改修を予定しています。開館状況はホームページまたはお電話での確認をお願いします。川端康成の小説『雪国』の情景を描いた日本画ギャラリーや「駒子の部屋」が見所。土器や古銭も展示。

47

岩の原ワイナリー 川上善兵衛記念館

川上善兵衛

上越市大字北方12223
025(528)4002
025(528)4002
岩の原葡萄園の創業者であり、「日本のワインぶどうの父」川上善兵衛が取り組んだぶどうの品種交雑やワイン造りの歴史がテーマ別に展示されています。

48

小川未明文学館

小川未明

上越市本城町8-30 高田図書館内
025(523)1083
025(523)1083
「日本児童文学の父」といわれる小川未明のおいちゃ業績、作品が生まれた背景などを紹介しています。未明童話を体験できる仕掛けもあり、毎月第2、第4日曜日にはお話し会を開催しています。

50

坂口記念館

坂口謹一郎

上越市頸城区鶴ノ木148
025(530)3100
025(530)3100
応用微生物学の世界の権威で「酒博士」として知られる坂口謹一郎博士の功績と酒造り道具の展示のほか、敷地内の雪橇の開花にあわせ4月1日から20日まで「坂口謹一郎博士と酒とつばきの祭典」を開催します。

51

上越市立歴史博物館

「越後の都」の歴史

上越市本城町7-7(高田城址公園内)
025(524)3120
025(524)3120
常設展では、「越後の都」をテーマに高田城と地域の歴史について資料はもちろん、模型やVR映像をふんだんに使ってわかりやすく紹介しています。令和5年度は「頸城油田の盛衰」などの企画展を行う予定です。

53

糸魚川歴史民俗資料館 《相馬御風記念館》

相馬御風

糸魚川市一の宮1-2-12
025(552)7471
025(552)7471
PASS
明治から昭和にかけて多彩に活躍した郷土の文人・相馬御風の関係資料を中心に収蔵・展示しています。2023年は御風生誕140年にあたり、記念事業を計画しています。糸魚川駅近くの県史跡相馬御風宅にもぜひご来館ください。

記憶館への熱いご支援に 心から感謝申し上げます

令和4年度「法人パスポート会員 維持会員」および「協力企業(50音順)」
稲田清掃工業株式会社、越後札紙株式会社、株式会社NST新潟総合テレビ、岡三にいがた証券株式会社、グリーン産業株式会社、クリエイティブ・サポート株式会社、株式会社コム、株式会社新宣、セコム上信越株式会社、株式会社大光銀行、株式会社第四北越銀行、田村紙商事株式会社、中越運送株式会社、長岡造形大学、新潟県信用組合、新潟綜合警備保障株式会社、株式会社新潟グランドホテル、株式会社新潟日報社、一般財団法人新潟日報美術振興財団、野村證券株式会社新潟支店、公益財団法人ビー・エス・エヌ教育文化振興基金、株式会社東日本福祉経営サービス、新潟税理士法人深滝合同事務所、富士タクシー株式会社、株式会社ブルボン

編集後記

二つの講演内容を今号の目玉とした。諦めず志を遂げた鷺尾雨工。五十嵐さんは一人の文士の境遇と生き方を輪郭鮮やかに浮かび上がらせた。一方、歌を詠むことが生きたことだった宮腰二。小島さんのお話は終二を尊敬する気持ちにあふれ、そこから伝わる終二の人と歌が心に響いた。新年度は、志半ばでこの世を去った画学生金子孝信、マルチな才能で活躍した新井満、そして生誕140年を迎える諸橋轍次を取り上げる予定だ。関係各方面の多大なるご協力が頼みです。よろしくお願ひします。

利用案内

●開館時間

午前10時～午後5時
(入館は午後4時30分まで)

●休館日

月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始、展示替え期間
※施設の保守点検等のために臨時休館する場合があります。

●入館料

一般 ……500円(400円)
学生(高校生以上) ……300円(240円)
中学生以下 無料

※()内は団体20名以上
※団体観覧は当館までご連絡ください。

●交通のご案内

新潟駅から…タクシ― 約5分
徒歩 約15分
新潟空港から…タクシ― 約15分

にいがた文化の記憶館

〒950-0088
新潟市中央区万代3-1-1
新潟日報メディアシップ5階
TEL 025(250)7171
FAX 025(250)7040
http://nmnc.jp